

平和・共生 個性・創造 自立・発展

沖縄国際大学

Okinawa International University



国際交流センター新入生Welcome Partyの様子(国際交流センター関連記事はP9)

学報第105号 [2015(平成27)年12月25日発行]

CONTENTS

新3号館 4月1日より供用開始予定	P2~P3	第44回沖縄大祭/2015年度体育祭	P10~P11
普天間基地から沖縄を考える集いを開催	P2~P3	「沖縄の金融事情」(経済学部寄付講座)が開講	P12
日韓学生サミットに日本側代表として本学学生が参加	P4	「ものづくり基盤研究技術強化支援事業」に採択されました	P12
「韓日交流エッセイ・フォトコンテスト2014」で優秀賞を受賞	P4	2015年度後援会支部総会を開催	P12
「学P沖縄リーグ2015」に本学学生が参加	P4	総合研究機構関連トピックス	P13
2020年東京オリンピックターゲット選手に選出	P5	2014年度国外研究員報告	P14
全九州空手道選手権大会優勝	P5	名誉教授称号記授与式を挙行政	P15
2015年度特待奨学生証書を交付	P5	教員出版物紹介	P15
キャリア支援情報	P6~P7	2015年度研究費交付決定一覧	P16
クラブ・サークル紹介	P8	波平勇夫名誉教授に瑞宝中綬章	P17
体育会:2014年度決算/2015年度予算	P8	学内人事	P17
文化会:2014年度決算/2015年度予算	P8	2014年度決算報告	P18~P19
国際交流センター	P9	2014年度事業報告	P20
外国語センター	P9	2016年度大学院入試案内	P20

新3号館 4月1日より供用開始予定

2016年4月1日より新3号館が供用開始予定です。老朽化した旧3号館の代替施設として建設中の新3号館は、地上5階建(延べ床面積:約6,979㎡)の教室棟となります。1階にはラウンジ、2階には学生広場を設けており、これまで以上に学生が利用しやすい設計がされています。また、各階に多機能トイレを設置し、省エネ対策として全館LED照明にするなど、環境やバリアフリーに配慮した施設設備を整えています。300人教室からゼミ室まで様々な規模の教室を有する新3号館は、より充実した学習環境の実現に資すると期待されています。

各階概要

1階	学生ラウンジ、学生印刷室、印刷室、非常勤教員控室、ゼミ室(4)、100人教室(1)、50人教室(1)、警備室、倉庫、機械室、ATM
2階	学生広場、300人教室(2)、54人教室(2)
3階	300人教室(1)、200人教室(1)、54人教室(1)、50人教室(2)
4階	200人教室(2)、ゼミ室(5)
5階	70人教室(1)、50人教室(2)、実験室



(完成予想図)

「普天間基地から沖縄を考える集い」を開催

2015年8月13日、「普天間基地から沖縄を考える集い」を開催致しました。2004年8月13日に起きた、米軍ヘリ墜落事件から今年で11年目を迎えました。事件を風化させないため、また沖縄を考え、世界へ平和を発信するために本学では「普天間基地から沖縄を考える集い」を毎年開催しています。

第一部の本学ポケットパーク(ヘリ墜落現場モニュメント前)で行われた集いには約180名の参加がありました。集いでは狩俣恵一副学長による集いの趣旨説明のあと、大城保理事長・学長より普天間飛行場の撤去・返還を求める旨の声明を発表しました。また、学生を代表して産業情報学部企業システム学科3年次の板良敷彩さん(首里高校出身)と産業情報学部産業情報学科3年次の高宮城允さん(具志川高校出身)の2名による意見発表が行われました。

第二部では、『〜ほくらが繋ぐ明日へのバトン〜8.13朗読ライブ「VOICE」』と題して学生らによる朗読が行われました。本学非常勤講師の佐渡山美智子先生の進行のもと、本学学生が集めた沖縄戦体験者等の証言を音楽と合わせて朗読ライブを行い、約70名の参加者がありました。また、本館2階では墜落事件に関連して、社会文化学科平和学ゼミ(指導教員:鳥山淳教授)による写真の展示を行いました。



高宮城 允(産業情報学科3年次)



板良敷 彩(企業システム学科3年次)



▲朗読ライブの様子



▲社会文化学科平和学ゼミによる写真展示

声明 2015年8月13日

沖縄国際大学への 米軍ヘリコプター墜落後、 11年目を迎えて(声明)【一部抜粋】



理事長・学長
大城 保

我々が不安に思い、恐れていた米軍ヘリ墜落事件がまたもや起こりました。昨日12日午後2時前に米軍ヘリMH60型機がうるま市伊計島沖に墜落しています。米軍用機が沖縄上空を飛行し続ける以上、墜落事件は県内どこかで起こりえます。軍用機は、安全最優先の民間飛行機に比べ安全性が低く欠陥度が高くなります。特に欠陥度が高いと言われるMV-22 オスプレイ機が騒音と低周波を発しながら普天間飛行場を基地にして県内上空を飛行すれば大惨事になる墜落事件の恐れがいつもあります。米軍基地があるゆえに起こる事件に、沖縄県民の不安と恐れ、そして憤りは募るばかりであります。

2004年8月13日、この場所この時間に、米軍ヘリコプターが墜落炎上して、学生、教職員、市民、県民を恐怖に陥れてから、今日で11年目を迎えます。あの日の墜落現場の惨事と米軍の理不尽な事故処理に対する市民、県民の憤懣やるかたない強い憤りが、時間の経過と共に薄れていくことも残念ながら現実でもあります。米軍ヘリコプター墜落事件の惨事の記憶を風

化させてはなりません。我々は今日、ヘリコプター墜落事件に対する憤りの記憶を、改めて鮮明に呼び覚まし、受け継ぐとともに、事件以来求め続けてきた普天間飛行場の即時閉鎖を要求し、ここに強い決意を込めて「普天間基地から沖縄を考える集い」を開催し、声明を発表します。

<省略>

沖縄国際大学は、琉球・沖縄の歴史の中で、人々が求め続けてきた「真の自由と、自治の確立」を建学の精神として、地域に根ざし、世界に開かれた大学を目指して参りました。安全・安心・平和への思いは、大学人に限らず、思想・信条を超えて万人が求めるところでもあります。大学や地域社会の平穏・安寧を脅かす普天間飛行場の存続、ましてや固定化を認めることはできません。

沖縄国際大学は、本学への米軍ヘリ墜落事件から11年目の今日、危険の上ない普天間飛行場を即時閉鎖し、撤去・返還することを、ここに改めて日米両政府に強く要求します。

日韓学生サミットに日本側代表として本学学生が参加

2015年8月23日～26日に韓国・釜山外国語大学にて開催された「日韓学生サミット」に法律学科4年次の仲間菜さん(八重山高校出身)が、日本側代表の一人として参加しました。

「日韓学生サミット」は、日韓国交正常化50周年を記念して日韓両国の大学生が一同に会して日韓関係の懸案事項と、問題点等に対する議論を目的としています。

仲間さんは、他の日本側代表2名と韓国側3名とともに「セッション1「日韓政治外交関係の現在と未来」」に参加。メイン発表では、共同教科書の作成や日韓での学術・学生交流の推進などを提案するなど議論をもとに公的・民間双方の側面から考えた発表を行ったとのこと。

仲間さんからは、「今回、サミットに参加した事で以前からあった海外に出て、見聞を広めたいという気持ちが強まりましたので、私の将来の夢は、日本各地や世界各地の色々な所に足を運んで自分の世界観を広げ、充実した人生を送ることです。」と、今後の目標を語って頂きました。



法律学科4年次 仲間菜



「2020年東京オリンピックターゲット選手」に選出

本学ウェイトリフティング部の知念光亮君(経済学科2年次/豊見城高校出身)と屋良一郎君(社会文化学科2年次/南部工業高校出身)が日本ウェイトリフティング協会より「2020年東京オリンピックターゲット選手」に認定されました。

「2020年東京オリンピックターゲット選手」とは、2020年に開催される東京オリンピックへの出場や活躍が期待される選手に対して認定するもので、強化合宿への参加や今後の活躍が期待されています。

知念君は7月に行われた第54回西日本ウェイトリフティング選手権大会では105kg級で優勝し、また6月にポーランドで開催された世界ジュニアウェイトリフティング選手権大会において、知念君が105kg級で4位、屋良君が94kg級で8位の成績を収めるなど、すでに世界の舞台上で活躍しています。



社会文化学科2年次 屋良一郎 経済学科2年次 知念光亮

「韓日交流エッセイ・フォトコンテスト2014」で優秀賞を受賞



地域行政学科4年次 久高秀太

駐日韓国大使館韓国文化院と東京韓国教育院の主催で行われた「韓日交流エッセイ・フォトコンテスト2014」で、地域行政学科4年次の久高秀太さん(具志川高校出身)がフォト部門で優秀賞を獲得しました。このコンテストは、今日における日韓の活発な文化交流による「共生・協力の新時代」の流れを未来につなげるため、次世代を担う若者を対象に互いの想いを伝え合い新しい「絆」作りをするために行っているものです。

久高さんは、2014年度の夏に行われた韓国協定校の韓南大学校での海外語学・文化セミナー(約3週間)に参加しました。研修中、夕食の際に撮った、笑顔溢れる集合写真を「マッコリでニコリ!」というタイトルで応募し、見事優秀賞に輝きました。副賞の「沖縄-韓国ペア航空券」で友人とソウルを観光し、地下鉄に初チャレンジしたり、お店などで韓国語を使ったりと、非常に実践的な体験が出来たそうです。

全九州空手道選手権大会で優勝

5月17日に長崎大学総合体育館で行われた第56回全九州学生空手道選手権大会個人戦において、下村世連君(社会文化学科4年次/鹿児島第一高校出身)が個人形で優勝し、7月に日本武道館で行われた第59回全日本学生空手道選手権大会に出場しました。下村君は組手でも鹿児島県代表として国民体育大会(国体)・全日本選手権大会に出場しています。

また、10月18日に行われた第64回全九州大学選手権大会においては団体形で本学空手道部が優勝しました。同大会で本学空手道部は5連覇を達成しました。今後も空手道部の活躍が期待されます。



本学空手道部



社会文化学科4年次 下村世連

「学P沖縄リーグ2015」に本学学生が参加

沖縄ファミリーマート主催の「学P沖縄リーグ2015」が今年も開催されました。学Pとは、県内7大学の学生が、沖縄県内のファミリーマートで販売する商品の開発から販売促進までを体験する企画です。今年は「カフェメニュー」をテーマに各大学の学生が商品開発を行いました。本学からは、企業システム学科宮森ゼミの学生が参加しました。沖縄国際大学のチームが商品開発した『ちよっとリッチなロールケーキ』はたくさんのフルーツを贅沢に使用したスイーツです。

各大学の学生が企画した商品は2015年10月6日～10月19日まで沖縄県内のファミリーマートで販売されました。惜しくも1位を獲得することはできませんでしたが、企業システム学科で学んだマーケティングを活かした点が評価され「ベストコンセプト賞」を受賞しました。



企業システム学科 宮森ゼミ



2015年度 特待奨学生証書を交付



法学部



産業情報学部



経済学部



総合文化学部

10月9日、各学部教授会において、2015年度の特待奨学生交付式が行われました。

本学奨学生は「学業・人物ともに優秀で、他の模範となる学生」という基準で選考され、今回交付対象となった30名(法学部6名・経済学部6名・産業情報学部6名・総合文化学部12名)には、授業料及び施設設備資金に相当する額の奨学金810,000円が交付されます。

今回の対象者の中には3年連続で選出された学生も多くおり、交付式では各学部長からその優秀な成績と真面目な勤勉ぶりに対する賛辞が述べられ、一人ひとりに証書の交付が行われました。

経済学科4年次の玉城真梨奈さん(那覇国際高校出身)からは「3年間、特待奨学生の採用ありがとうございます。大学は高校までの受け身と違い、自身の積極性と責任感を養うことができる場所だからこそ、1年次から頑張ることができました。大学生活で関わった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。残り少ない学生生活を無駄にせず、悔いの残らないよう過ごしたいと思います。」とコメントを頂きました。

キャリア支援情報

2015年度卒業予定者(現4年次)から、就職活動のスタート時期が大きく変わっています。これまでの、企業の採用広報活動の開始は12月1日、選考活動の開始は4月1日でしたが、変更後は、企業の採用広報活動の開始は3月1日から、選考活動の開始は8月1日からへと変更になりました。

さらに、2016年度卒業予定者(現3年次)から選考活動の開始は6月1日へと変更になります。それに先駆けて、キャリア支援課による就活準備セミナーも、9月25日から始まっています。

就職先を決めることは、卒業後の人生を左右する大切な選択です。早めにコツコツと取り組むことが、希望の進路への近道となります。

3年次の皆さんが長く厳しい就職活動を乗り切り、希望する企業の内定を手にするために、キャリア支援課では様々な形で就職活動をサポートしています。上手く活用して就職活動を有利に進めてください。

キャリア支援課による就活準備セミナーはじまる

3年次を対象とした就活準備セミナーが、9月25日から本格的に始まりました。セミナーでは、就職活動のノウハウを学ぶため、連続講座(全6回)として、下記のテーマに沿って開講しました。就職活動を成功させ、希望の職業に就くために、セミナーで学んだことを活かしてください。

「就活準備セミナーテーマ」

- 第1回 「就職活動に向けて」～心構えとスケジュール～
- 第2回 キャリアアドバイザーから見た就活生の就活の現状と課題～仕事理解と自己分析編～
- 第3回 学チカ(学生時代に力を入れたこと)
- 第4回 書く技術を高める！沖国生の自己PRの傾向と対策
- 第5回 話して伝える自己表現とは！～面接試験の種類とポイント～
- 第6回 業界・企業研究

就職相談

就職活動を進めるにあたり、悩んだり戸惑ったりすることが多々あります。そんな時、一人で悩まずキャリア支援課の窓口にご相談ください。キャリア支援課を大いに活用して就職活動を乗り切りましょう。

1.キャリアアドバイザーによる就職相談

キャリアアドバイザーによる「就職なんでも相談」を行っています。ここでは、就職に対する意識と行動力を身につけることを主な目的としています。就職や進路に関することなら、学年を問わず、どなたでも利用できます。将来の進路のことや具体的な就職活動の進め方、自己分析の仕方、履歴書やエントリーシートの書き方、模擬面接など、どんなことでも気軽にご相談ください。また、ワークショップ等も開催していますので奮ってご参加ください。なお、キャリアアドバイザーによる相談は予約制となっていますので、以下のとおりにお申込みください。

- 相談日:毎週火曜日 14:00～18:00
毎週水曜日 14:00～18:00
- 場所:本館3階会議室
- 予約窓口:キャリア支援課にて随時受け付けています。

2.ハローワーク沖縄による就職相談

ハローワーク沖縄のジョブサポーターによる大学巡回相談を行っています。学年を問わず就職に関する相談を受けていますので、希望される方は以下のとおりにご利用ください。

- 相談窓口:毎週月曜日 12:00～16:00
- 場所:本館3階会議室・5号館1Fロビー
- 予約窓口:キャリア支援課にて受け付けています。

3.キャリア支援課スタッフによる就職相談

キャリア支援課スタッフによる履歴書添削、模擬面接を行っています。どちらも予約が必要ですので、希望される方は以下のとおりにご利用ください。

- 〈模擬面接および履歴書添削〉
- 相談日:月曜日～金曜日(随時)
- 場所:キャリア支援課個別面談室
- 予約窓口:キャリア支援課にて受け付けています。(9:00～19:00)
- 予約時に必要なもの:「履歴書添削」「模擬面接」を予約する場合は、受験する企業に提出する履歴書またはエントリーシートのコピー
- ※その他、就職に関する相談を学年を問わず随時受け付けています。

県外就職サポート

本学では、県外就職活動時の旅費の一部を補助する「県外就職活動補助金制度」などにより、県外就職を希望する学生を引き続き支援して参ります。

また、本学が加入している私立学校振興・共済事業団の「学生就職活動サポートセンター」が東京と大阪にあり、本学の学生は無料で県外でも就職相談、履歴書添削、模擬面接、セミナー受講などのサポートを受けることができます。

さらに学内でも県外就職に関するイベント等を開催しておりますので、県外就職を希望する学生の皆さんは、サポート制度・施設・イベント等をぜひご活用ください。

インターンシップを実施

本学では、毎年夏期休業中(8月～9月)の2～3週間の日程で、インターンシップを実施しています。今年も県内の企業や公的機関、県や市町村など94企業(機関)に270名の学生を受け入れていただき、実習を行いました。

また、県外就職を希望する学生2名が選考され「東京中小企業家同友会・元山和仁記念社長弟子入りツアー」に1週間参加して、東京で活躍する経営者に密着しビジネスの最前線を肌で体験してきました。

インターンシップでは、実際に企業(機関)で就業体験を行うことにより、職業意識を向上させる機会に繋がります。具体的な業務を体験することで自分自身を見つめ直し、これからの社会生活でプラスになることを多く学ぶこともできます。ぜひインターンシップ制度を利用して自分の職業適性や可能性を見つけ、就職活動の参考にしてください。

資格試験受験体験談 瀬長 達貴 経済学部 地域環境政策学科 4年次



Word文書処理技能認定試験3級 Excel表計算技能認定試験2・3級合格

私は就職活動を控え、そして就職後の事も考え、Word文書処理技能認定試験・Excel表計算技能認定試験対策講座を受講しました。どこの会社でもパソコンで作業する時間はあると思います。この資格はパソコンでの事務作業をする時に活かせると思い、講座を受講し、資格を取得しました。

この講座を受講するにあたり、パソコンの知識に疎かった私は授業中に講師に何度も質問し、模擬試験を多く解き、知識を深める事ができました。3級の資格取得後、2級にも挑戦し、無事に合格することも出来ました。

WordとExcel講座は、講師がわかりやすく指導してくれ、少人数で受講生個人に合わせた指導でもあり、短期間で取得できる資格講座なのでおススメです。ぜひ、皆さんも自分自身の将来の為に興味のある資格は積極的に挑戦して欲しいです。

就職内定者コメント 小波津 滋成 経済学部 地域環境政策学科 4年次



私は入学時より進みたい業界を定めてはいたものの、やはり常に悩みながらの大学生活でした。しかし、県内外多くの企業を訪ね、様々な職業観を知り、積極的に周囲の人に相談をしていくことで、自分の意思を固めることができました。入学してから今日まで、人一倍迷ったからこそできた長い自己分析だったと思っています。

インターンシップや試験対策などの取り組みも非常に重要ですが、私は自分の考えや経験は誰にも負けないその人だけの武器であると考えています。これから就職活動をする皆さんも自分の武器に自信を持って、良く見せようと取り繕うのではなく、普段通りの自分で頑張ってほしいと思います。そうすればきっと就職活動は楽しく有意義な、後悔のないものになるはずです。

講座受講の呼びかけ

キャリア支援課では、各種資格取得・検定試験等の受験対策として有料講座を開講しています。今年度は、19種類の講座を企画し、203名が受講しました。また、各種資格取得・検定試験等には789名が受験し、189名(2015年12月1日現在キャリア支援課把握分)が難関を突破し合格しています。1月以降の開講予定講座は2月・3月の春休みをメインに開講を予定しています。開講講座と検定試験の案内はキャリア支援課掲示板と学内Web 掲示板「沖国大ポータル」で案内していますのでご覧ください。

各講座で学んだことや取得した資格は、社会に出ても必要とされるものばかりです。興味を持った講座・検定試験等に挑戦してみませんか。

2016年1月以降に開講予定の講座

講座名	説明会	募集期間
Word 文書処理技能認定試験3級対策講座	1月22日	1月22日～2月5日
Excel 表計算処理技能認定試験3級対策講座	1月22日	1月22日～2月5日
速読講座	1月29日	1月29日～2月12日
ファイナンシャル・プランニング(FP)技能士3級対策講座	1月29日	1月29日～2月12日
医療事務・医療事務コンピュータ対策講座	1月29日	1月29日～2月12日
介護ヘルパー初任者研修対策講座	1月8日	1月8日～1月22日
介護事務講座	1月8日	1月8日～1月22日

kickin jam selecters

代表 島野 陽平 (産業情報学科2年次)

DJ という言葉を誰でも一度は耳にしたことがあるかと思いますが。DJ とはディスクジョッキーの略であり、ラジオのパーソナリティーなども DJ と呼ばれています。DJ という言葉は広く知れ渡っているのですが、実際に DJ が何をしているのかという分からない方がほとんどだと思います。私が所属している kickin jam selecters では、先に述べたパーソナリティーではなく、音楽を円滑に流していく DJ 活動を行っており、日々練習に励んでいます。そうして磨かれたスキルは、先輩から後輩に渡り県内でも有名な DJ を多数輩出しております。これはサークル部長の私にとって大きな誇りであり、DJ 活動の原動力になっています。先輩方のご指導があってこそ今の kickin jam selecters があり、そして私たちのプレイを聞いてくれるリスナーの方々日々感謝しこれからも邁進していく所存です。皆さん kickin jam selecters をこれからも宜しくお願い致します。



軟式野球部

副キャプテン 上間 拓郎 (経済学科2年次)

私達沖縄国際大学軟式野球部は、とても楽しく有意義に部活動に打ち込んでいます。部員も少数であり硬式野球と比較するとマイナー競技ではありますが、軟式野球ならではの魅力や楽しさを部員全員で追求しようと、野球が好きな想いを持った仲間と構成されています。創部から約6年経過し、これまで春秋通算10季連続で沖縄県リーグ戦の優勝を成し遂げることが出来ました。その成果が実り、毎年8月開催の全日本選手権大会、11月開催の西日本選手権大会に毎年出場させて頂いています。実績を残せた陰には、これまで支えて頂いた部長・監督・コーチを始め、OBの先輩方・常に応援して下さいの方々のご支援・ご協力があることだと感じています。常に感謝の気持ちを忘れず、今後も選手権大会優勝を目指して努力していきたいと思っております。今後とも軟式野球部をご支援頂きますよう宜しくお願い致します。



沖縄国際大学 体育会

2014年度決算書 (単位:円)

自 2014年4月1日 至 2015年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	14,716,000	事業費	16,772,279
寄付金	0	登録費及び参加料	0
雑収入	525	運営費	97,432
前年度繰越金	2,255,690	雑費	0
		次年度繰越金	102,504
合計	16,972,215	合計	16,972,215

2015年度予算書 (単位:円)

自 2015年4月1日 至 2016年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	15,303,500	事業費	15,333,000
寄付金	1,000	登録費及び参加料	1,000
雑収入	1,000	運営費	73,004
前年度繰越金	102,504	雑費	1,000
合計	15,408,004	合計	15,408,004

沖縄国際大学体育会は、体育運動を通じて学生・教員及び職員の内身を練磨し人格の向上を図るとともに、スポーツマンシップを養成し、あわせて会員相互の親睦と本学の発展に寄与することを目的とする。

沖縄国際大学 文化会

2014年度決算書 (単位:円)

自 2014年4月1日 至 2015年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	11,790,000	事業費	13,148,998
寄付金	0	備品費	248,440
雑収入	3,054	運営費	127,907
前年度繰越金	13,930,286	雑費	0
		次年度繰越金	12,197,995
合計	25,723,340	合計	25,723,340

2015年度予算書 (単位:円)

自 2015年4月1日 至 2016年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	12,260,000	事業費	20,681,000
寄付金	1,000	備品費	3,400,000
雑収入	3,000	運営費	379,995
前年度繰越金	12,197,995	雑費	1,000
合計	24,461,995	合計	24,461,995

沖縄国際大学文化会は、文化活動を通じて学生及び職員の内面的な陶冶を図り、文化活動を継承・創造する人材を育成し、文化活動による社会貢献の実践を促進すると同時に、会員相互の親睦と本学の発展に寄与することを目的とする。

国際交流センター

国際交流センターでは毎年7月に「日本語学・文化研修」として国外協定校から研修生を受入れ、日本語と日本・沖縄文化を学ぶ約3週間のプログラムを実施しています。今年の参加学生は韓南大学校(韓国)から9名、東海大学(台湾)から1名の合計10名でした。研修生たちは、平日午前は本学で日本語の授業を受け、午後や週末は学外での文化研修などに参加しました。宿泊先である那覇市内のホテルから毎日バスで大学に通い、ランチにはお弁当を買って食べるなど、沖縄での大学生活を楽しんでいました。このプログラムでは、歓迎ランチパーティーやキャンパスツアー、各種交流会や文化体験において、本学学生と多く交流する機会を設けています。本学学生は国際交流サポーターとして、研修生のサポートを実施しています。これらの機会を通して交流を重ね、フリータイムには学生同士でレジャーやショッピングに出かける光景が見られました。

今年度の文化研修は読谷村の一般家庭で沖縄の生活を体験する2泊3日の「民泊」を皮切りに、首里城見学やピオスの丘でのカヌー体験、本学学生の協力による浴衣の着付け、茶道体験やちゅら海水族館見学を含む北部研修などを行いました。また、悪天候による日程変更はありましたが東村立高江小中学校との交流会では、同校児童生徒のみなさんが準備してくれた様々なレクリエーションに参加し、ことばの壁を越えた交流を実現していました。このような体験・交流を通じて、研修生たちは沖縄への理解を深め、サポートしてくれた本学学生達との絆を強めていました。

研修生達は台風の来襲にも動ずることなく研鑽し、最終日には日本語も上達し友達も増え、本学学生たちとの別れを惜しむ姿が見られました。3週間という限られた期間ながら実り多い研修であったことが窺えました。



東村立高江小中学校との交流



読谷村での民泊



茶道体験の様子



首里城観光

実施月	行事名
4月	海外語学・文化セミナー(台湾・オーストラリア)帰国報告会・写真展
	新入生Welcome Party
5月	海外語学・文化セミナー(韓国・カナダ・中国・スペイン)募集説明会
	国外協定校交換留学(韓国・台湾)・日本語教員インターン(澳門)募集説明会
6月	国外協定校交換留学(韓国・台湾)選考試験
7月	日本語学・文化研修生(韓国・台湾)受入
8月	国外協定校交換留学・派遣留学生(フランス・澳門・米国・カナダ)出発
	海外語学・文化セミナー(韓国・カナダ・中国・スペイン)出発
9月	国外協定校特別聴講学生(フランス・澳門)受入
10月	海外語学・文化セミナー(韓国・カナダ・中国・スペイン)帰国報告会
	海外語学・文化セミナー(台湾・オーストラリア)募集説明会
11月	
12月	国外協定校交換・派遣留学生(フランス・澳門・米国・カナダ・スペイン)募集説明会
	クリスマスパーティー
1月	お花見・フィールドトリップ
	国外協定校交換留学・派遣留学生(フランス・澳門・米国・カナダ・スペイン)選考試験
	日本語教員インターン(澳門)出発
2月	国外協定校交換留学生(韓国・台湾)出発
	海外語学・文化セミナー生(台湾)出発
3月	国外協定校特別聴講学生(韓国・台湾)受入

外国語センター

●学内スピーチコンテスト

外国語センターでは、文化の比較・国際交流や現地での体験などをテーマとし、語学の向上と言語習得のチェックの場として、英語をはじめとする様々な言語の学内スピーチコンテストを行っています。6月26日に「第12回学内英語スピーチコンテスト」が開催されました。今年の出場者は13名、そのうち10名は一年次でした。出場者は各々多彩な内容のスピーチをし、会場を盛り上げていきました。厳選なる審査の結果、木村山吹さん(産業情報学科1年次)がGrand Prizeに選ばれました。続いてSecond Prizeに奥儀翔太郎さん(英米言語文化学科1年次)、Third Prizeに楊群さん(英米言語文化学科1年次)、Honorable Mentionに山内康乃さん(英米言語文化学科1年次)、Audience Prizeに上原璃人さん(英米言語文化学科4年次)が入賞しました。入賞者の皆さん、おめでとうございます。そして、応援して下さいの皆さん、ありがとうございます。また、11月6日には「第16回学内中国語スピーチコンテスト」、11月27日には「第9回学内韓国語スピーチコンテスト」、12月11日には本学で日本語を勉強している科目等履修生や交換留学生による「第21回学内日本語スピーチコンテスト」を行いました。今後は、「第6回学内琉球語スピーチコンテスト」を予定しています。興味がある方は参加、または気軽に聴きにきてください。では、次回コンテストでまた会いましょう！



沖国大祭2015

Luana

～みんなで楽しむ～

去る11月21日・22日の両日、第44回沖国大祭が開催されました。今年は「Luana～みんなで楽しむ～」をテーマに学生たちが様々な催し物でイベントを盛り上げました。今年度の新しい取り組みとして、実行委員と障がいを抱えた学生による出店を行いました。また福祉施設の方々を招き実行委員によるガイドも行いました。

今回も多くの皆様のご協力により沖国大祭を終了しましたことを、心より御礼申し上げます。



第44回沖国大祭実行委員会からのメッセージ

去る11月21日(土)、22日(日)に行われました「第44回沖国大祭」には多くの皆様にご来場頂きまして誠にありがとうございます。今年度からの新たな取り組みが多いなか、至らない点も多い実行委員ではありましたが、支えてくださった皆様のおかげで無事に2日間の全日程を終了することが出来ました。沖国大祭の開催にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様、地域住民の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、沖国大祭の開催に伴い、大学周辺の混雑や騒音により地域住民の方々に多大なるご迷惑をおかけしたことを深くお詫

び申し上げます。今回、ご指摘いただきました点につきましては、次年度の反省点として実行委員一同、改善に努めて参りますので、今後とも変わらぬご厚情とご厚誼を賜りますようお願い申し上げます、お礼の挨拶とさせていただきます。

2015年11月26日

沖繩国際大学
大学祭実行委員会
実行委員長 下地 紗央



2015年度 体育祭

2015年5月20日、体育祭を開催しました。体育祭は、学生全体が学部や学科、学年を越え、親睦を深めるため、毎年開催されているものです。

昨年度に引き続き、今年度も大学実行委員が運営を行いました。当日はあいにくの天気で、フットサルは中止となりましたが、体育館でバレーボール大会を実施しました。各チームとも団結し、最後まで白熱した試合を展開。体育祭は大いに盛り上がり、学生や教職員の親交を深めた1日となりました。



『沖縄の金融事情』(経済学部寄付講座)が開講

2015年10月16日より、経済学部で寄付講座『沖縄の金融事情』を開講しています。初日は、大城保学長と宮城和宏経済学部長の挨拶の後、開講セレモニーを行いました。『沖縄の金融事情』の講師は、各種金融機関に勤める専門家です。7社の金融機関から複数の講師を派遣していただき、それぞれの立場から沖縄の金融事情について講義していただいています。この寄付講座は経済学部シナジープロジェクトの一環であり、対象学生は経済学部の2・3年生です。学生にとって、就職を意識するとともに大学の講義・勉強の意義を考える機会となっています。



講義提供会社等 : リゅうぎん総合研究所、おきぎん経済研究所、海邦銀行、コザ信用金庫、大同火災、おきなわ証券、金融広報委員会

『ものづくり基盤研究技術強化支援事業』に採択



6月12日(金)採択式[沖縄県工業技術センター]

2015年6月12日に、企業システム学科 木村眞実研究室と、拓南商事株式会社(沖縄県うるま市)、いその株式会社(愛知県)による産学連携事業が、株式会社沖縄TLOによる「(沖縄県委託事業)平成27年度ものづくり基盤研究技術強化支援事業」として採択されました。技術開発テーマは「使用済自動車由来の樹脂リサイクルを実現するための、樹脂の選別・洗浄・破砕に係る技術の開発」です。拓南商事株式会社・いその株式会社による技術開発と同時に、木村研究室によるマテリアルフローコスト会計の手法を用いたリサイクル樹脂の生産工程の評価を行い、質の高い樹脂リサイクルの実現を目指します。

2015年度 後援会支部総会を開催

2015年度沖縄国際大学後援会支部総会を開催しました。

支部総会に先立ち教職員の「学生生活・学業及び就職相談会」が行われ、保護者の皆さんが熱心に参加もしくは相談されておりました。

支部総会のすべての議案が承認され、新垣實会長から、新旧役員の方々のご労苦に対し感謝し、「今後も沖縄国際大学の発展のために、広くご友人やご親戚の方々へ沖縄国際大学のすばらしさを大いに宣伝してください」と挨拶がありました。

大城保学長は「皆様のお子さんは沖縄の将来を背負ってつなぐ人材になります。その人材を育てていくのが大学の役割です。新3号館が建築中ですが、1階、2階(1階ラウンジ、2階学生広場)が学生のためのスペースになり、全館教室棟になります。旧3号館解体後「中庭」の整備、構想中の『(仮称)学生会館』の建設など、今後とも後援会のご協力ご支援よろしく申し上げます。」と挨拶しました。

今年度も昨年に引き続き就職講演会を行いました。久米島支部、宮古支部ではキャリアデザイン研究所の松堂美和子講師が「～子ども達の夢の実現のために～ 若者のキャリア形成支援のあり方」と題して、いずれはやってくる子どもたちの就活、子ども達が社会の中で自立「なりたかった自分」になるために親や教師はどう支援すればよいのか、私たちができることは何か、ともに考えてみませんか」と講演されました。本学におけるキャリア教育の取り組みも紹介されました。

また、八重山支部、北部支部では一般社団法人グジョブおきなわプロジェクト代表の喜屋武裕江講師が「十年後のために“今”出来ること」と題して、目標(夢)をかなえるために自分自身が成長し、自分のことは他人任せではなく自分で決めること、そして仲間を大切に誰かの役に立つようにと講演しました。

全日程の終了後、高校長・進学担当教諭・校友会支部役員もご出席のもと、保護者の皆さんと有意義な懇親会が行われました。

- ①久米島支部総会 10月 3日(土) 出席者12名(会員数 30名) 於: リゾートホテル久米アイランド
- ②宮古支部総会 10月10日(土) 出席者32名(会員数139名) 於: ホテル共和
- ③八重山支部総会 10月17日(土) 出席者17名(会員数 71名) 於: 南の美ら花ホテルミヤヒラ
- ④北部支部総会 10月23日(金) 出席者17名(会員数279名) 於: ホテルゆがふいんおきなわ



久米島支部



宮古支部



八重山支部



北部支部

総合研究機構関連トピックス

南島文化研究所

第37回南島文化市民講座「今、戦争遺跡を考える」を開催

南島文化研究所では、研究成果を地域に還元することを目的として毎年市民講座を開催しています。今年も11月7日(土)に「今、戦争遺跡を考える」と題して第37回南島文化市民講座を開催しました。戦後70年の節目の年に、「戦争遺跡」の調査・研究、保存・活用

の第一線で活躍する方たちをお招きし、基調講演、報告およびパネルディスカッションを行いました。約150名の皆さんが参加し、真剣に登壇者の話に聞き入り、会場は熱気に満ちていました。

「戦争遺跡」というものの存在を、まずは市民のみなさんに知ってもらうための大変有意義な「入門講座」となりました。

今後は、参加した皆さんが地元に戻り足元の「戦争遺跡」について考えることにつなげていくことでしょうか。



沖縄法政研究所

『問われる沖縄アイデンティティとは何か—「普天間からの発信」—』を出版

沖縄法政研究所が、昨年(2014年)6～8月に開催し好評を博した連続企画「沖縄国際大学米軍ヘリコプター墜落10年」の講演会・シンポジウム・写真パネル展等の内容が再構成され、沖縄タイムス社より『問われる沖縄アイデンティティとは何か—「普天間」からの発信—』(本体価格1000円+税)が刊行されました。最寄りの書店にて好評発売中です。

今年度は、「戦後70年 沖縄の未来を考える」をテーマに、連続企画を開催します。第一回目は12月12日にシンポジウム「『基地の島』沖縄が問う—「辺野古問題」を考える—」を、1月30日には講演会「『国境の島』沖縄が問う—自衛隊配備を考える—」、最後に2月20日に講演会「『観光の島』沖縄が問う—観光の未来を考える—」を開催します。皆さまのご来場をお待ちしております。



沖縄経済環境研究所

一般社団法人泡盛マイスター協会寄附講座「琉球泡盛学Ⅱ」を開講中

沖縄経済環境研究所では、本年度も一般社団法人泡盛マイスター協会による寄附講座「琉球泡盛学Ⅰ・Ⅱ」を開講しております(「琉球泡盛学Ⅰ」は前期で終了、現在は「琉球泡盛学Ⅱ」を開講中です)。泡盛は沖縄の伝統、文化、そして自然を理解する上で欠かせない存在であると同時に、沖縄産業振興計画において重点産業として位置づけられる等、県経済の発展に欠かせない存在であります。本講座は泡盛マイスター協会の寄附講座として2015年度で第4期を迎え、沖縄から全国、そして世界へと泡盛の素晴らしさを啓蒙・普及する人材を育成することを目的に行われます。今年も泡盛マイスターに向けて多くの学生、一般の方が受講しております。



産業総合研究所

第23回フォーラム『道標(しるべ)求めて—沖縄の自己決定権を問う』を開催

産業総合研究所と琉球新報社は、2月15日(日)に『道標(しるべ)求めて—沖縄の自己決定権を問う』を開催しました。政治学者としてメディアでも活躍している姜尚中氏に基調講演をしていただいた後、2回のパネルディスカッションを行いました。登壇者には、東アジア全体をにらんだ沖縄の将来像、経済的自立の道筋などについてご提言いただき、大変有意義な時間となりました。



基調講演「琉球とアジア、主権をめぐる」 姜尚中(聖学院大学学長)

第1部 パネルディスカッション「歴史の教訓、そして未来へ」

登壇者: 姜尚中(聖学院大学学長)、上村英明(恵泉女学園大学教授)、姜弘(北京師範大学副教授)、波平恒男(琉球大学教授)、島袋純(琉球大学教授)

第2部 パネルディスカッション「自己決定権と沖縄経済」

登壇者: 平良朝敬(かりゆしグループCEO)、岡田良(那覇市IT創造館館長)、富川盛武(本学教授)、仲地健(本学教授)

※肩書きは開催当時のものです。

各研究所では研究成果の地域貢献のために様々な企画を行っております。研究所の活動についてはホームページをご覧ください。

2014年度 国外研究員報告

澤田 佳世(社会文化学科教授)

研修先 ハワイ東西センター(East-West Center)【アメリカ】
研修期間 2014年4月1日～2015年3月31日

アジア太平洋地域を対象とする人口・家族研究の世界的拠点であるハワイ東西センターで、自由闊達な恵まれた研究環境のもと、研究に社会的交流に楽しく駆けめぐった1年。

研究面では、東西センターの研究プロジェクト(Family Change in Asia and the United States と Population and Health: Fertility Transition in Asia)の知見を得ながら、科研費課題「沖縄の国際結婚とジェンダー再配置：越境する家族と移住女性の主体形成・権利保障」について、フィリピンや宮古島で現地調査を実施、沖縄のグローバル化する家族形成過程とそのジェンダー的含意を探究した。また、今後の研究課題となるハワイやハワイの沖縄系移民の人口・生殖の歴史、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する探索的調査も開始した。加えて、拙著「戦後沖縄の生殖をめぐるポリティクス：米軍統治下の出生力転換と女たちの交渉」(大月書店、2014年)をふまえ、マンチェスター大学やニューヨーク州立大学の研究者でつくる「冷戦とアジアの人口政策」国際研究チームと交流し、国際ジャーナルでの論文発表の機会を得た。すべての研究について、ハワイ大学・東西センターの図書館、ハワイ沖縄センター等で情報収集を行い、東西センターやハワイ大学女性学部、日本研究センター、沖縄研究センターの教員やスタッフと交流し知的助言を受けた。

沖縄の方々のご厚意にふれ、Hawaii United Okinawa や Akisamiyo Club などハワイ沖縄系移民と交流、Okinawan Festival では南風原クラブの一員として3世の女性たちとアンダーギーを売るなど、研究の進展と学術的交流に向けた人的ネットワークづくりも行った。

充実の1年を享受させてくれた沖縄国際大学とハワイ東西センター、出逢った全ての人たちに心より感謝申し上げます。



又吉 光邦(産業情報学科教授)

研修先 サンノゼ州立大学(San Jose State University)【アメリカ】
研修期間 2014年4月1日～2015年3月31日

私は進化計算を用いて組合せ最適化を行う研究をしています。2014年度、本学の国外研修により、アメリカ・カリフォルニア州のサンノゼ州立大学に1年間お世話になりました。サンノゼという場所は、Google、Yahoo、Facebook、そしてAppleなどの本社があり、ITのメッカと言われ、シリコンバレーという名称で世界に知られています。そのため、研究の刺激になればそこへ行きました。正直、「ズバリ、私の研究領域とマッチしている」というわけではなかったのですが、やはり、大きな刺激を受ける機会に恵まれました。一つ目は、大手企業からベンチャー企業まで新製品を出品する展示会場に行けたこと。二つ目は、シリコンバレーのど真ん中のサンノゼ州立大学で学べたことです。サンノゼ州立大学には、世界各地から学生が研鑽に集まっています。私はそこで多くの友達(一番の宝物です)もできました。既に大学を卒業し、Apple本社で働いている友達もいます。

今後は、私の受け取った刺激をできるだけ本学の学生に伝えられたらと思います。そして、国外で活躍する沖縄国際大学卒業生が出ることを願っています。



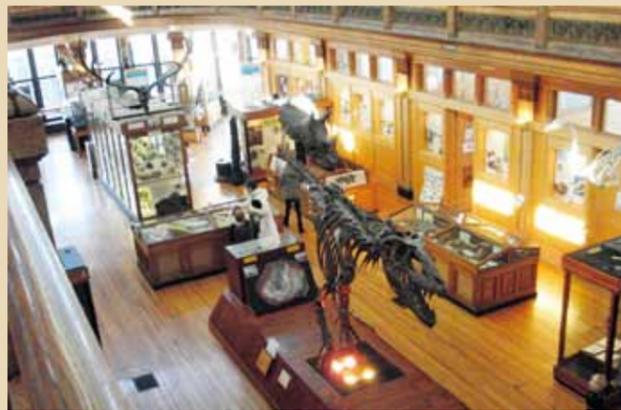
新垣 武(地域環境政策学科教授)

研修先 マギル大学(McGill University)【カナダ】
研修期間 2014年9月1日～2015年3月31日

カナダ国ケベック州モントリオールにあるマギル大学で2014年9月から2015年3月までの半年を学外研究員として過ごした。モントリオールを訪れるのは20年ぶりであったが、前にもお世話になった世話役教授やそのスタッフ、また事務の方々も顔馴染みが多くて、直ぐに環境に適應することが出来た。

現在、主要な温室効果ガスである二酸化炭素の大気中濃度の上昇に伴う地球温暖化や海洋酸性化が問題になっておりその回収貯蔵が検討されている。今回の海外研修では炭酸塩鉱物であるアラゴナイトの相転移やドロマイトの溶解について室内実験にもとづいて検討した。相転移反応や溶解反応が共存する有機化合物などにより大きく影響を受けることが分かった。この成果は地下貯蔵層として検討されている炭酸塩鉱物中における二酸化炭素の挙動を知る上で重要である。

久しぶりに真冬には氷点下40度以下にもなるモントリオールでの生活を味わったが、いつも温暖な気候に慣れている身にはとても新鮮で良い刺激になった。このような貴重な機会を与えてくださった沖縄国際大学とマギル大学に感謝いたします。



名誉教授称号記授与式を挙げる



前列左から松田節子先生、宮城邦治先生、稲福みき子先生

2015年7月31日、本館5階応接室において、3月末に退職された宮城邦治先生(前 社会文化学科教授)、松田節子先生(前 英米言語文化学科教授)、稲福みき子先生(前 社会文化学科教授)へ名誉教授の称号が授与されました。宮城邦治先生は36年間、松田節子先生・稲福みき子先生は29年間にわたり、本学の教育・研究において多大な貢献をされました。

大城保学長より称号記が授与され、これまでの教育及び学術の功績に敬意を表するとともに、本学での功労に感謝の言葉を述べられました。また、多くの本学関係者の参加があり、3名の先生方が長きにわたり本学の発展へ貢献されたことが窺える盛大な授与式となりました。

教員出版物紹介

- 紹介者
- ① 著書名
- ② 著者名
- ③ 出版社
- ④ 発行年月日
- ⑤ 該当するもの

● 芝田 秀幹(法律学科教授)

- ① 河合栄治郎「学生に与う」現代版
新・現代の学生に贈る
- ② 川西重忠、西谷英昭、芝田秀幹 他(著)
- ③ 桜美林大学北東アジア総合研究所
- ④ 2015年5月8日
- ⑤ 共著

● 中野 正剛(法律学科教授)

- ① 未遂犯論の基礎—学理と政策の史的展開—
- ② 中野正剛
- ③ 成文堂
- ④ 2014年11月20日
- ⑤ 単著

● 李ヒョンジョン(企業システム学科教授)

- ① 日本語教育の現場から—言葉を学ぶ/教える場を豊かにする50の実践
- ② 佐々木倫子(編)/李ヒョンジョン 他(著)
- ③ ココ出版
- ④ 2015年2月14日
- ⑤ 共著

● 木村 眞実(企業システム学科准教授)

- ① 静脈産業とマテリアルフローコスト会計
- ② 木村眞実
- ③ 白桃書房
- ④ 2015年2月26日
- ⑤ 単著

● 石垣 直(社会文化学科准教授)

- ① 複ゲーム状況の人類学—東南アジアにおける構想と実践—
- ② 杉島敬志(編)/石垣直 他(著)
- ③ 風響社
- ④ 2014年10月30日
- ⑤ 共著

● 比嘉 理麻(社会文化学科講師)

- ① 沖縄の人とプター—産業社会における人と動物の民族誌
- ② 比嘉理麻
- ③ 京都大学学術出版会
- ④ 2015年3月31日
- ⑤ 単著

● 三村 和則(人間福祉学科教授)

- ① 沖縄で教師をめざす人のために
- ② 上地完治、西本裕輝(編著)/三村和則 他(著)
- ③ 協同出版
- ④ 2015年7月10日
- ⑤ 共著

● 沖縄国際大学公開講座委員会

- ① 沖縄を取り巻く経済状況—沖縄に流れている俗説は果たして正しいのか—
- ② 沖縄国際大学公開講座委員会
- ③ 編集工房 東洋企画
- ④ 2015年3月31日
- ⑤ 編著

● 沖縄法政研究所

- ① 沖縄国際大学米軍ヘリコプター墜落事件10年問われる沖縄アイデンティティとは何か—「普天間」からの発信—
- ② 沖縄法政研究所
- ③ 沖縄タイムス社
- ④ 2015年3月25日
- ⑤ 編著



★科学研究費助成事業(研究代表者)

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	若手研究 B	総合文化学部	教授	澤田 佳世	沖縄の国際結婚のジェンダー再配置——越境する家族と移住女性の主体形成・権利保障	461,744
2	基盤研究 C	産業情報学部	准教授	木村 眞実	自動車静脈系サプライチェーンにおける MFCA の適用に関する研究	500,000
3	基盤研究 C	産業情報学部	准教授	田口 順等	現代クルーズ客船誘致による地域経済への影響と観光政策評価	1,000,000
4	基盤研究 C	総合文化学部	教授	西岡 敏	琉球民謡語彙のデータベース化	600,000
5	基盤研究 C	経済学部	准教授	根路銘もえ子	屋外環境においてロバストなマーカレス重量表示を用いた観光案内システムの開発	800,000
6	基盤研究 C	産業情報学部	教授	原田 優也	私的空間におけるアジア消費者間コンテンツ・シェアリング行動とメカニズムの比較研究	1,400,000
7	挑戦的萌芽	総合文化学部	教授	小柳 正弘	障害児支援における「現場の理念」の探索・構築—現場と倫理学の循環的交流	500,000
8	若手研究 B	法学部	講師	野添 文彬	施政権返還後の沖縄米軍基地と日米沖関係—1970年代を中心に	600,000
9	若手研究 B	地域文化研究科	学振特別研究員	山田 浩世	近世琉球の流動的身分に関する基礎的研究	1,200,000
10	基盤研究 C	産業情報学部	准教授	小渡 悟	ジェスチャ操作型ロボットを用いた身体性の拡張による生活支援	1,300,000
11	若手研究 B	総合文化学部	講師	及川 高	奄美群島の日本復帰運動に関する歴史人類学的研究	600,000
12	研究活動スタート支援	総合文化学部	准教授	下地 賀代子	南琉球・多良間水納島方言の動詞と形容詞の記述的研究	700,000
13	研究活動スタート支援	総合文化学部	講師	比嘉 理麻	ハワイ沖縄系移民の養豚と差別に関する人類学的研究	1,100,000
14	基盤研究 B	総合文化学部	教授	鳥山 淳	戦後沖縄の平和運動に関する個人資料群の公開・活用モデルの構築と実証的研究	2,400,000
15	特別研究員奨励費	地域文化研究科	学振特別研究員	山田 浩世	近世琉球における官人制度の構造的な研究	800,000

★科学研究費助成事業(研究分担者)

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	研究代表者
1	基盤研究 A	総合文化学部	准教授	下地 賀代子	日本語の時空間変異対照研究のための『全国方言文法辞典』の作成と方法論の構築	関西大学 日高水穂
2	基盤研究 A	総合文化学部	教授	西岡 敏	消滅危惧言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究	琉球大学 狩俣繁久
3	基盤研究 A	総合文化学部	准教授	下地 賀代子	消滅危惧言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究	琉球大学 狩俣繁久
4	基盤研究 B	総合文化学部	講師	比嘉 理麻	文学理論の生態学的転回にむけた学際的共同研究	一橋大学 三原芳秋
5	基盤研究 A	総合文化学部	准教授	里 麻奈美	OS 言語の談話処理メカニズムに関するフィールド心理言語学的研究	東北大学 小泉政利
6	基盤研究 B	総合文化学部	准教授	比嘉 昌哉	効果的なスクールソーシャルワークモデルの評価と理論構築	大阪府立大学 山野則子
7	基盤研究 C	産業情報学部	准教授	木村 眞実	自動車リサイクル産業の国際展開に関する日韓比較研究	熊本大学 外川健一
8	基盤研究 C	総合文化学部	准教授	桃原 一彦	現代日本と沖縄をめぐる社会意識の動態に関する探索的研究	大妻女子大学 池田緑
9	基盤研究 C	経済学部	准教授	島袋 伊津子	インフォーマル・フォーマルな金融を通じた家族によるリスクシェアリング：沖縄の事例	愛知大学 打田委千弘
10	基盤研究 C	総合文化学部	准教授	下地 賀代子	琉球方言発達過程解明のための宮古群島域における言語地理学的研究	岡山大学大学院 又吉里美
11	挑戦的萌芽	経済学部	教授	崎浜 靖	軍事的圧力に抗う文化的実践—沖縄とパレスチナにおける地誌編纂と景観修復	大阪市立大学 山崎孝史
12	基盤研究 B	法学部	准教授	上江洲 純子	諸外国倒産手続きにおける担保目的物の評価手法に関する比較検証	大阪大学 藤本利一
13	基盤研究 B	総合文化学部	教授	吉浜 忍	戦後沖縄の平和運動に関する個人資料群の公開・活用モデルの構築と実証的研究	沖縄国際大学 鳥山淳
14	基盤研究 B	総合文化学部	准教授	藤波 潔	戦後沖縄の平和運動に関する個人資料群の公開・活用モデルの構築と実証的研究	沖縄国際大学 鳥山淳
15	基盤研究 B	総合文化学部	准教授	比嘉 昌哉	スクールソーシャルワーカーの専門性向上のためのスーパービジョン・プログラムの開発	久留米大学 門田光司

★文部科学省いじめ対策等生徒指導推進事業費委託事業(研究分担者)

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	研究代表者
1	調査研究	総合文化学部	教授	比嘉 昌哉	エビデンスに基づくスクールソーシャルワーク事業プログラムの実施支援とその評価	大阪府立大学 山野則子

★公益信託宇流麻学術研究助成基金

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	人文・社会科学	産業情報学部	教授	宮森正樹	中小企業のグローバル化に関する一考察	150,000
2	自然科学・技術	産業情報学部	教授	安里 肇	メタデータ分析によるテキストマイニングの基礎的研究	150,000
3	人文・社会科学	総合文化学部	教授	安次富 郁哉	沖縄県一離島における社会的孤立高齢者から考える「孤立死」予防システム～地域関係孤立の視点から～	150,000



2015年11月3日、秋の叙勲の受章者が発表されました。本学の元学長である波平勇夫 先生に教育研究功労で瑞宝中綬章が贈られました。波平先生は、社会学の分野において、沖縄の社会階層、都市研究に大きく貢献するとともに、沖縄国際大学第8代理事長・学長として学部改組および学部学科・大学院研究科の新設に携わり、本学ひいては沖縄県の高等教育の発展につとめられました。

学内人事

退職教員コメント

法学部
地域行政学科・講師
西山 千絵
(にしやま ちえ)

勤続年数：3年
主な担当科目：日本国憲法、憲法Ⅰ・Ⅱ、法学、基礎演習など

学生との出会いに恵まれ、教員として育てられ、充実した忘れがたい日々を過ごすことができました。お世話になった教職員の方々にも心より感謝しつつ、本学のますますの発展をお祈りいたします。

採用職員コメント

最終学歴：沖縄国際大学大学院地域文化研究科修士課程修了

これまでの経験とネットワークを活かし、沖縄法政研究所及び大学の一層の発展に微力ながらお役に立てるよう、努めて参りますので、よろしくお祈りいたします。

沖縄法政研究所
研究助手
石川 朋子
(いしかわ ともこ)

〔昇任：事務職員：7月1日付〕

新職名	氏名	旧職名
財務部会計課 課長補佐	泉 秀 昭	教務部教学課 係長
教務部学務課 課長補佐	岸 本 ジャン	財務部会計課 係長
学生部キャリア支援課 課長補佐	上 間 勝 彦	センター統括部入試センター 係長
教務部学務課 係長	仲 西 かおり	教務部学務課 主任
センター統括部国際交流センター 係長	水 村 千恵子	センター統括部国際交流センター 主任
図書館図書課 係長	島 袋 彰	図書館図書課 主任
経営広報役員室 主任	山入端 太 一	経営広報役員室 係員
教務部学務課 主任	永 村 祐	学生部学生課 係員
センター統括部入試センター 主任	仲 里 淳	センター統括部入試センター 係員

〔退職：教育職員：9月30日付〕

職名	氏名
法学部 地域行政学科 講師	西 山 千 絵

〔採用：事務職員：9月1日付〕

職名	氏名
教務部研究支援課 沖縄法政研究所 研究支援助手	石 川 朋 子

〔配置換：事務職員：7月1日付〕

新職名	氏名	旧職名
センター統括部入試センター 課長	玉 手 伸 彦	センター統括部情報センター 課長
センター統括部情報センター 課長	徳 原 峰 一	センター統括部入試センター 課長
財務部会計課 課長補佐	池之内 かおり	教務部研究支援課 課長補佐
教務部研究支援課 課長補佐	高 石 由美子	財務部会計課 課長補佐
事務局総務課 係長	呉 屋 利枝子	教務部学務課 係長
教務部学務課 係長	岩 橋 梢	事務局総務課 係長
センター統括部入試センター 係長	坂名城 政 弘	学生部キャリア支援課 係長
事務局環境安全対策課 主任	高江洲 秀 樹	経営広報役員室 主任
教務部教学課 主任	幸 地 良	教務部学務課 主任
図書館図書課 主任	嶺 井 かおり	センター統括部国際交流センター 主任
学生部学生課 係員	有 銘 恵 吾	事務局環境安全対策課 係員
経営広報役員室 係員	美 里 将 太	教務部学務課 係員



訃 報

大野 隆之 (おおの たかゆき)
2015年8月30日 逝去 54歳
千葉県茂原市出身
1994年4月 沖縄国際大学講師に採用
2004年4月 教授昇任
2006年4月から2008年3月まで教務部長を務める。
2012年 第32回沖縄文化協会「仲原善忠賞」受賞

玉城 隆雄 (たまき たかお)
2015年6月1日 逝去 82歳
沖縄県那覇市出身
1976年4月 沖縄国際大学講師に採用
1983年4月 教授昇任
2003年3月 退職、2004年4月 本学名誉教授

棚原 健次 (たなはら けんじ)
2015年7月2日 逝去 85歳
沖縄県中頭郡与那城村出身(現うるま市)
1968年4月 沖縄大学講師に採用。
1972年4月 沖縄国際大学助教授に採用。
1977年4月 教授昇任
2000年3月 退職
1974年4月から1976年3月まで学生部長を務める

高宮 廣衛 (たかみや ひろえ)
2015年8月20日 逝去 88歳
沖縄県石垣市出身
1957年4月 沖縄短期大学講師に採用
1960年4月 沖縄大学講師に採用
1969年4月 沖縄大学教授に昇任
1972年4月 沖縄国際大学教授に採用
1999年3月退職 1999年4月本学名誉教授

1970年2月から1971年9月まで沖縄大学学長を務める
1975年4月から1977年3月まで沖縄国際大学文学部長を務める
1980年10月から1984年3月まで南島文化研究所所長を務める
1984年4月から1988年3月まで沖縄国際大学理事長・学長を務める
第10回東恩納寛惇賞受賞
第22回伊波普猷賞受賞

湧上 元雄 (わくがみ もとお)
2015年9月9日 逝去 99歳
沖縄県島尻郡玉城村出身(現南城市)
1986年4月 沖縄国際大学教授(特任職員)に採用
1988年3月 退職
※琉球大学を退職後、本学に奉職いただいた。

2014年度 決算報告

財政の概要

2014(平成26)年度の財政状況の資料は、1.資金収支計算書、2.消費収支計算書、3.貸借対照表について掲載した。なお財政運営については、本学中長期経営計画で掲げている次の基本方針を遵守している。

- 収入均衡の財政運営を図る。
- 借入金に依存しない財政運営を図る。
- 自己資金で調達できる限度内での施設設備の投資を行う。

また、計算書類は学校法人会計基準(昭和46年4月1日文部省令18号)に従い作成し、様式は補助金交付基準に基づく表示区分になっている。

今年度の財政状況については、第2次中長期経営計画を基本に策定した2014年度事業計画に基づく予算編成方針とその実行結果(決算)から検討したい。

大学を取り巻く環境および本学の現況は、その基本方針に端的に見ることができるので以下に引用再掲し、主な決算事項について概観する。

「大学は人材育成を通じて社会に貢献することが使命である。本学がその使命を長期的・安定的・持続的に果たしていくために確固たる財政基盤の確立が不可欠である。

大学を取り巻く社会経済環境は非常に厳しい状況にある。(中略)文部科学省は、メリハリのある私学助成を進めていくとしており、国庫助成金の増額が期待される状況ではなく、私立大学を取り巻く環

資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の収入及び教育研究並びにその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにした。

資金収支計算書(自2014年4月1日至2015年3月31日)(単位:円)

科目	予算	決算	差額
学生生徒等納付金収入	4,648,732,000	4,642,909,780	5,822,220
手数料収入	84,524,000	91,751,928	△7,227,928
寄付金収入	49,780,000	49,951,427	△171,427
補助金収入	226,486,000	214,340,372	12,145,628
資産運用収入	61,111,000	52,258,071	8,852,929
事業収入	11,125,000	10,950,540	174,460
雑収入	100,985,000	121,791,509	△20,806,509
前受金収入	1,997,070,000	1,923,132,045	73,937,955
その他の収入	2,016,359,155	1,354,462,509	661,896,646
資金収入調整勘定	△2,109,010,746	△2,053,952,955	△55,057,791
前年度繰越支払資金	11,858,611,382	11,858,611,382	
収入の部合計	18,945,772,791	18,266,206,608	679,566,183

【資金収支決算概要】

- ① 学生生徒等納付金収入のうち、授業料収入及び施設設備資金収入は、前期納入実績に基づき予算補正を行ったが、収入減となった。
- ② 手数料収入のうち入学検定料は、収入増となっているが、前年度と比較すると志願者の減により減額となっている。
- ③ 寄付金収入のうち特別寄付金収入は、学生サポート奨学金への寄付増により収入増となった。
- ④ 補助金収入のうち経常費補助金収入では、一般補助・特別補助の枠組みの変更等により減額となった。
- ⑤ 資産運用収入は、定期預金の金利等が下落したため収入減となった。
- ⑥ 事業収入は、概ね予算どおりの収入となった。

境は厳しい状況が続いていくものと予想される。

現在、本学の収支状況、経営状況については、大きな問題はないが、今後、学生納付金による収入は増加の見通しが全く立たず、一定を維持することがやっとならう。むしろ、大学を取り巻く現下の社会情勢において、収入減少を計画的に見込まざるをえない。したがって、支出節減に集中的に取り組んでいくことが肝要である。

2014年度の予算編成は、事業計画に基づき収入一定で事業効果を最大にすると同時に、昨年度に引き続き経費節減に集中的に取り組む。」

収支状況、経営状況は、結果的に次年度繰越支払資金と当年度消費収入額が増加し「大きな問題はない」ように見える。教育研究経費や管理経費に支出節減、経費節減への取り組みの効果が表れているが、見方によれば執行残が財務安定の一部となったことは否めない。また本学帰属収入の90%近くを占める学生生徒等納付金だが、文部科学省の政策により、近い将来、入学生数の見直し(減)が避けられないだろう。それに伴いやがて節減と執行残に支えられた収入超過にも限界がある。日本経済の上向きがマスコミの話題となるが、大学および学生を取り巻く社会経済環境はなお厳しい状況にある。かつ、より厳しくなる入学者数の確保、入学後の支援・学習環境の整備、卒業後の就職問題等のケア向上、補助金獲得方策等に課題があり、そのより一層の充実と改善に努めることが求められる。

科目	予算	決算	差額
人件費支出	2,849,578,838	2,771,739,440	77,839,398
教育研究経費支出	1,279,355,251	1,180,322,183	99,033,068
管理経費支出	200,305,000	171,052,966	29,252,034
借入金等利息支出	6,050,000	6,050,000	0
借入金等返済支出	50,000,000	50,000,000	0
施設関係支出	718,138,000	68,453,529	649,684,471
設備関係支出	164,141,000	153,602,956	10,538,044
資産運用支出	868,041,000	688,211,545	179,829,455
その他の支出	1,467,443,150	1,456,123,034	11,320,116
[予備費]	(20,065,089)		19,934,911
資金支出調整勘定	△244,301,000	△317,880,998	73,579,998
次年度繰越支払資金	11,567,086,641	12,038,531,953	△471,445,312
支出の部合計	18,945,772,791	18,266,206,608	679,566,183

- ⑦ 雑収入は退職金財団交付金が増えたため、収入増となった。
- ⑧ 前受金収入は、学費、入学金等の減少により減額となった。
- ⑨ 人件費支出は、専任教員、非常勤教員、専任職員及び非常勤職員給与費等における予測誤差による差異となった。
- ⑩ 教育研究経費支出は、節減効果及び未執行等による差異となった。
- ⑪ 管理経費支出は、節減効果及び未執行による差異となった。
- ⑫ 施設関係支出は、新3号館の契約変更による前払い金未執行のため大幅な差異となった。
- ⑬ 設備関係支出は、空調システム料金予測誤差等による差異。
- ⑭ 予備費支出は、定年によらない職員退職金支出による。

消費収支計算書

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収入内容及び執行状況を示し、学校法人の経営状況を明らかにしたものである。

消費収支計算書(自2014年4月1日至2015年3月31日)(単位:円)

科目	予算	決算	差額
学生生徒等納付金	4,648,732,000	4,642,909,780	5,822,220
手数料	84,524,000	91,751,928	△7,227,928
寄付金	52,180,000	52,289,114	△109,114
補助金	226,486,000	214,340,372	12,145,628
資産運用収入	61,111,000	52,258,071	8,852,929
事業収入	11,125,000	10,950,540	174,460
雑収入	100,985,000	121,791,509	△20,806,509
帰属収入合計	5,185,143,000	5,186,291,314	△1,148,314
基本金組入額合計	△992,279,000	△302,724,614	△689,554,386
消費収入の部合計	4,192,864,000	4,883,566,700	△690,702,700

【消費収支決算概要】

- ⑬ 帰属収入合計は、当初予算編成時に、学生生徒等納付金等の算定根拠となる学生数、受験者の減少を見込んだ下方調整や入学実績に基づく予算補正を行ったため、概ね予算どおりとなった。
- ⑭ 基本金組入額は、土地、施設設備、機器備品、図書、借入金返済に係る組入れ等、第1号基本金の組入れを行った。なお、新3号館の前払未執行のため大幅な差異となった。

貸借対照表

貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものである。

貸借対照表(2015年3月31日現在)(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	17,852,684,849	17,446,119,403	406,565,446
有形固定資産	10,055,243,554	10,251,387,138	△196,143,584
土地	1,695,988,150	1,695,988,150	0
建物	4,869,532,004	5,094,655,280	△225,123,276
構築物	433,696,175	467,492,011	△33,795,836
教育研究用機器備品	347,287,255	398,740,886	△51,453,631
その他の機器備品	13,714,272	18,766,884	△5,052,612
図書	2,624,021,044	2,573,832,851	50,188,193
車輛	3,633,609	1,911,076	1,722,533
建設仮勘定	67,371,045	0	67,371,045
その他の固定資産	7,797,441,295	7,194,732,265	602,709,030
電話加入権	2,550,798	2,550,798	0
有価証券	79,578,482	59,939,364	19,639,118
退職給付引当特定預金	1,313,000,000	1,213,000,000	100,000,000
校舎建築引当特定預金	850,139,567	850,139,567	0
減価償却引当特定預金	4,187,213,244	3,795,603,289	391,609,955
金秀奨学金引当特定預金	1,700,000	1,800,000	△100,000
長演奨学金引当特定預金	4,680,000	4,980,000	△300,000
波平博士課程奨学金引当特定預金	1,800,000	1,800,000	0
山城大学院奨学金引当特定預金	500,000	600,000	△100,000
学生サポート奨学金引当特定預金	10,050,545	10,019,118	31,427
宮城勇体育奨学金引当特定預金	2,550,000	2,700,000	△150,000
校友会教育備品費引当特定預金	11,750,900	11,250,900	500,000
後援会奨学金引当特定預金	17,515,000	16,535,000	980,000
校友会奨学金引当特定預金	2,500,000	1,900,000	600,000
第3号基本金引当資産	1,311,831,379	1,221,831,379	90,000,000
預託金	81,380	82,850	△1,470
流動資産	12,174,057,486	12,050,848,974	123,208,512
現金預金	12,038,531,953	11,858,611,382	179,920,571
未収入金	121,969,209	188,677,155	△66,707,946
貯蔵金	1,884,503	1,705,787	178,716
前払金	11,671,821	1,847,200	9,824,621
仮払金	0	7,450	△7,450
資産の部合計	30,026,742,335	29,496,968,377	529,773,958

●負債の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,479,503,895	1,533,868,822	△54,364,927
長期借入金	200,000,000	250,000,000	△50,000,000
退職給付引当金	1,279,503,895	1,283,868,822	△4,364,927
流動負債	2,467,999,597	2,524,979,764	△56,980,167
短期借入金	50,000,000	50,000,000	0
未払金	316,033,798	341,520,185	△25,486,387
前受金	1,923,132,045	1,931,983,746	△8,851,701
預り金	178,833,754	201,475,833	△22,642,079
負債の部合計	3,947,503,492	4,058,848,586	△111,345,094

●基本金の部

科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	17,983,528,021	17,770,803,407	212,724,614
第2号基本金	850,139,567	850,139,567	0
第3号基本金	1,311,831,379	1,221,831,379	90,000,000
第4号基本金	318,000,000	318,000,000	0
基本金の部合計	20,463,498,967	20,160,774,353	302,724,614

●消費収支差額の部

科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費収入超過額	5,615,739,876	5,277,345,438	338,394,438
消費収支差額の部合計	5,615,739,876	5,277,345,438	338,394,438

科目	予算	決算	差額
人件費	2,843,858,838	2,767,374,513	76,484,325
教育研究経費	1,772,631,251	1,561,094,630	211,536,621
管理経費	237,486,000	204,371,399	33,114,601
借入金等利息	6,050,000	6,050,000	0
資産処分差額	2,593,000	6,281,720	△3,688,720
[予備費]	(20,065,089)		19,934,911
消費支出の部合計	4,882,554,000	4,545,172,262	337,381,738
当年度消費収入超過額	0	338,394,438	
当年度消費支出超過額	689,690,000	0	
前年度繰越消費収入超過額	5,277,345,438	5,277,345,438	0
翌年度繰越消費収入超過額	4,587,655,438	5,615,739,876	

⑮消費収入の部は、学生生徒納付金収入、補助金収入、資産運用収入、事業収入を除いて増額となり、消費支出の部において、教育研究経費及び管理経費の節減と未執行のため、当年度消費収入超過額が予算を上回る結果となり、翌年度繰越消費収入超過額は更に累積し5,615,739千円となった。

●消費収支差額の部

科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	30,026,742,335	29,496,968,377	529,773,958

注記

- 1.重要な会計方針
 - (1)引当金の計上基準
徴収不能引当金
未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込み額を計上している。
 - 退職給与引当金
退職金の支給に備えるため、期末支給額1,310,402,538円の100%を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。
 - (2)その他の重要な会計方針
有価証券の評価基準及び評価方法
移動平均法に基づく原価法である。
棚卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法に基づく原価法である。
- 2.減価償却額の累計額の合計額 8,238,622,691円
- 3.徴収不能引当金の合計額 0円
- 4.担保に供されている資産の種類及び額
担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。
土地(学校用地)8,265㎡ 43,174,972円
- 5.翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 251,222,180円
- 6.その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項
(1)有価証券の時価情報

時価が貸借対象表計上額を 超えるもの	貸借対照表計上額		
	勘定科目	当年度(2015年3月31日) 時価	差額
有価証券	(59,939,364)	101,559,000	41,619,636
第3号基本金引当資産	(99,980,000)	100,766,600	786,600
(うち満期保有目的の債券)	(0)	(0)	(0)
有価証券	(0)	(0)	(0)
第3号基本金引当資産	(99,980,000)	(100,766,600)	(786,600)
時価が貸借対象表計上額を 超えないもの	有価証券	19,639,118	19,362,000
第3号基本金引当資産	(0)	0	0
(うち満期保有目的の債券)	(0)	(0)	(0)
有価証券	(0)	(0)	(0)
第3号基本金引当資産	(0)	(0)	(0)
合計	有価証券	79,578,482	120,921,000
第3号基本金引当資産	99,980,000	100,766,600	786,600
(うち満期保有目的の債券)	(0)	(0)	(0)
第3号基本金引当資産	(99,980,000)	(100,766,600)	(786,600)

- (2)偶発債務
該当なし
- (3)所有権移転外ファイナンス・リース取引
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リースは、次のとおりである。
①平成21年4月1日以降に開始したリース取引
該当なし
②平成21年3月31日以前に開始したリース取引
該当なし
- (4)関連当事者との取引
該当なし

※この貸借対照表は、学校法人会計基準(昭和46年4月1日文部省令第16号)に従い作成しており、様式は補助金交付の観点からの表示区分になっています。

2014年度 事業報告 (抜粋)

私立大学法第47条第2項に基づき、2014年度の本学事業内容を開示いたします。本学は今後も「地域の私立大学」として、建学の理念・目的、教育目標を前提に、自主的・主体的に教育水準の改善向上を図り、健全な経営に向けて継続的に取り組んで参ります。(紙面の都合から抜粋といたしました。全文は、大学Webページで公開しておりますので、そちらもご覧いただければ幸いです。)

1. 教育・学修に関する事業

- (1) 学部教育(学部学科)
- (2) 組織的FDの推進
- (3) 教育支援者(TA・SA)制度の活用促進
- (4) 教員免許状更新講習の実施

2. キャンパスライフ支援に関する事業

- (1) 学生生活支援に関する事業
- (2) 学生相談業務に関する事業
- (3) 健康管理業務に関する事業
- (4) 学生活動に関する事業

3. 図書・情報メディア環境に関する事業

- (1) 図書館利用の活性化と図書館サービスの拡充
- (2) 情報メディア環境の整備強化事業

4. 入学・キャリア支援に関する事業

- (1) 学生募集・入学者支援に関する事業
- (2) 入学試験実施の効率的運営
- (3) 就職支援事業
- (4) キャリア教育支援事業

5. 大学院教育・研究支援・地域連携に関する事業

- (1) 大学院教育
- (2) 研究所支援
- (3) 科研費による研究事業
- (4) 地域連携・交流事業
- (5) 「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に係る地域連携事業の取り組み

6. 国際交流・連携および特別語学教育の強化に関する事業

- (1) 国際交流促進事業
- (2) 外国語教育強化特別事業

2016年度大学院入試案内

去る9月20日に、沖縄国際大学大学院の9月入学試験が実施されました。専攻の結果、地域文化研究科2名(志願者12名)、地域産業研究科1名(志願者1名)、法学研究科2名(志願者7名)の計5名が合格となりました。

2016年2月7日には、2月入学試験が実施されます。現在、入試要項及び大学院案内を入試センターにて配布しております。

詳細については、入試センターへお問合せください。
TEL:098-893-8945
E-mail:entchr@okiu.ac.jp

大学院研究科及び募集人員

研究科・専攻		募集人数
地域文化研究科	南島文化専攻	10人
	英米言語文化専攻	3人
	人間福祉専攻 (社会福祉学)	10人 (5人)
	(臨床心理学)	(5人)
地域産業研究科	地域産業専攻	10人
法学研究科	法律学専攻	8人

※募集人員は9月・2月入学試験合計
※()は人間福祉専攻の内数

大学院入学試験(2月試験)

入学試験日	2016年2月7日(日)
検定料納入期間	2016年1月12日(火)～1月19日(火)
出願期間	2016年1月12日(火)～1月19日(火) * 郵送に限る。(最終日消印有効)
合格発表	2016年2月19日(金)午前11時
入学時納入金納入期間	2016年2月20日(土)～3月4日(金)
入学手続	2016年2月20日(土)～3月4日(金) * 郵送に限る。(最終日消印有効)